

学部 / 看護専門領域 / 看護の実践 科目コード : 120411 精神看護学実習 Psychiatric Nursing Practicum					
担当教員	川村 みどり 清水 暢子 大江 真吾 谷本 千恵				
実務経験					
開講年次	3年次後期	単位数	2	授業形態	実習
必修・選択	必修	時間数	90		
Keywords	精神科病院での実習、入院患者への看護実践				
学習目的・目標	<p>【目的】 精神科看護師として、講義や実習で学んだ知識・技術・態度を統合して、精神科看護の対象となる人への看護を実践する基礎能力を身につける。また、対象の望む「生活」や「生き方」を実現する支援について考えることができる。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象への理解を深めることができる。 2. 患者―看護師関係における治療のプロセスが重要である理由を説明できる。 3. 精神科看護における倫理観を養うことができる。 4. 対象への治療と看護について説明できる。 5. 対象の健康状態をアセスメントし、日常生活上必要な援助を考えることができる。 6. 看護学生として適切かつ責任のある行動をとることができる。 				
授業計画・内容					
回	内容				
	<p>【学習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科病院の構造・諸規則等についての理解 2. 精神科薬物療法の実際と看護ケアについての理解 3. 精神科リハビリテーション療法（作業療法、心理教育、SST、レクリエーション療法等）の実際、ならびにヘルスケアワーカーとの協働の実際と看護の役割についての理解 4. 精神疾患・障害のある人(対象)について、生物・心理・社会的モデルによる理解 5. 発達課題と達成状況、身体状態、精神状態、セルフケア、今後の可能性（ストレス、ソーシャルサポート）のアセスメント 6. 対象のセルフケアの維持・拡大、ならびに地域生活移行に向けた看護の実際理解、患者目標の設定、看護計画立案、実施、評価 7. 対象の精神症状緩和に向けた治療的コミュニケーションの理解と実践 8. 倫理的配慮、自己選択・自己決定の尊重、人権擁護の重要性についての理解と看護の実践 <p>【学習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科病院の救急・急性期病棟、慢性期病棟、回復期病棟で、患者1名を受け持ち実習する。 2. 看護過程に沿って看護計画を立案、実施、評価する。 3. 事前学習、プロセスレコードによるふり返り、教員・実習指導者・グループメンバー等との学生主体のカンファレンス実施等を通して、受け持ち患者に対する看護の方向性を明確にし、より効果的な看護を実践する。 4. 合同検討会や全体会を通して学びを共有し、今後の看護に生かす。 				
教科書	岩崎弥生、渡邊博幸（編集）：精神看護学① 精神看護学概論・精神保健 第4版、メジカルフレンド社、2015 岩崎弥生、渡邊博幸（編集）：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第4版、メジカルフレンド社、2016 上田敏（著）：ICFの理解と活用、初版、萌文社、2005				
参考図書等	渡辺雅幸：専門医がやさしく語る はじめての精神医学 改訂第2版、中山書店、2015 精神看護学概論、精神看護方法論Ⅰ・Ⅱ、疾病・障害論Ⅲの配付資料など				
評価指標	実習期間の2/3以上出席することにより、評価の対象とする 実習目標の達成状況 40% 実習内容、実習記録 40% 実習態度 10% カンファレンスでの発表 20%				
関連科目	哲学、生命倫理学、心理学、臨床心理学、社会福祉論 看護専門領域の科目全般。特に、精神保健論、疾病・障害論Ⅲ（精神）、精神看護学概論、精神看護方法論Ⅰ、地域精神保健看護論、精神看護学実習、統合実習A				
教員から学生へのメッセージ	精神看護学実践の目的は、精神看護の対象である人がその人の望む生活をその人らしく送れるよう援助することです。対象は健康な人から精神疾患・障害のある人まで幅広く含みます。精神看護学実習では第二次予防（精神疾患患者への看護援助）と第三次予防（精神障害者のリハビリテーション）の実際について学び、基礎的な実践能力を養います。				